

令和4年度

石川町議会と自治センター事務長との意見交換会記録

日 時 令和4年11月16日（水）午後5時53分から午後7時28分まで

場 所 石川町役場 議員控室

出席者

各自治センター事務長（敬称略）	議 員
緑川 信夫(石川自治センター)	藤島 一浩（記録）
山田 達也(沢田自治センター)	菊池美知男（報告）
長谷川信光(山橋自治センター) 欠席	瀬谷 寿一
志賀 一隆(中谷自治センター)	矢内 義將
圓谷 貴司(母畑自治センター)	近内 雅洋（班長）
二瓶 清正(野木沢自治センター)	

次 第 1 開会（挨拶）近内 2 自己紹介 3 議会報告
4 意見交換 5 閉会

発言内容等

議員：意見交換会ということで、各地域の課題についてというテーマがでています。そういうことで、我々より地域に一番近いところで、各地区の地域の声を聞いている自治センター事務長さんに、意見を聞いて、その解決策を模索していきたいと思いますので、今までの自治センター事務長をやっていて、こういう問題があるとか、率直に話していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。なかなか意見が無いようでは困りますので、沢田地区の山田さんあたりから沢田地区の声として何かあれば。

○：いろいろな行事をやるときに、必ず出てくる話題なんですが、地区住民の足ですね。参加者の交通手段が無いため、だいたい乗り合わせて来るんですけど、それでも交通手段がない人は参加しないとなってしまう。今、実証実験でベニマルまでの送迎これから始まると思うんですが、これは、長い距離ですが、私たちが問題にしているのは、沢田自治センターまでとか、サロンで地域の集会所に集まる時などで、サロンで意見を聞くと、「一昨年まで来ていたんだけど、あの人は足が悪いから来られない」というような200m～300mの送迎です。そういうのをなんとかしたいと思っている。今月24日に沢田でポッチャ交流会を企画していて、町の車を借りて送迎しようと考え町に申請賞を出したら、総務課から送迎等という使い方の規定がないので、できませんと言われた。規定を見直してもらって、送迎とか

に使用できるようになればと思う。送迎についてはなんの行事をするときにも出てくるので、参加したい人ができるようにしてほしい。それが問題かなと思っている。できないなら、センターで送迎するという話になったが、企画商工課からセンターの業務には無いので、送迎はやらないでください。やるなら時間休をとって個人としてやってくださいと言われていた。保健福祉課の有償ボランティアで考えている。企画商工課からはやらないでと言われているので、何か解決方法があればと思っている。

議員：一つの意見として、野木沢のミニデイは地域で送迎しているんですね。

○：ミニデイについては、今は、コロナ禍でできていない。1回400円からそれぞれの担当を決めて、お金は会費で賄っている。携わっている人は全てボランティアで、男の方は送迎、女の方は料理と分けけて行っている。

議員：サロンは、自分の足で来なさいと言うが来られない。中田のサロンは20～30人、週1回開催している。男の人たちが車を出して、各地域から4～5人連れてきている。送迎やりたくないなという人が出てきたり、そういう問題をかかえている。

議員：2種免許とか、万が一の補償がとか考えるとできなくなってしまう。

議員：難しい問題である。他の地区ではどうですか。

○：母畑のサロンは、自治センター、上母畑、湯郷渡の3地区で行っている。近くの人が乗せてきているが、周りの人から、なんか事故あったどうすんだとか、搭乗者保険に入っているのかという意見があった。今まで事故がなかったのでよかったが、再開すると心配である。

議員：うちの子供、学校の先生やっているけど、万が一の補償があるので、先生はハンドル握るなど言われている。

議員：送迎とかやらないと、サロンとか機能しなくなる。

○：保健福祉課の「いきいき健康体操」では、決められた期間、決められた地域だが、町の運転手が送迎していた。どこが担当課かによって違う。

○：中谷地区で保健福祉課がやっているミニデイ事業については、町のバスの利用がある。自治センター活動は町のバスを使うことは厳しい。サロンは、地域の送迎している人も高齢者なので、事故があったときの保険とか不安がある。講習を受けると人を載せてもいいというのがあって、地区の方に受けてもらって、無償ではなく、自治協議会でチケット作成し、利用者が購入して運用できないか検討している。石川町のバスの使用の範囲を広げてほしい。

議員：その講習って2種免許とか必須なんですか？

○：営業ではないので、2種は必要ない。講習を受けると送迎ができる。

議員：講習を受けても事故が起きれば運転手の責任になるので、そこを解決しないといけない。

○：事故が起こった場合、善意の方が行っていたとしても、逆に重いことになってしまうので、資格を持った人に有償で活動できるよう考えている。

議員：講習はどこで受けるのか。各センターで独自にやるとなると、それぞれでやったのでは酷い話だと思う。担当課を決めて町の方で責任をもって方針を決めてもらわないと、自助努力でめいめいやったのでは、まずいと思う。

○：地域で格差ができると困る。

議員：同じようなサービスを受けられるということは、町の責任としてやるべき。町が関与して進めるべき。

○：町の事業なら車を出せる、自治センターの事業は出せないというのは理解できない。

議員：営業でやっているタクシーなどとの兼ね合いもある。業務を圧迫するので、そちらもクリアする必要がある。

○：無料だったら絶対やられますので、お金とることは前提。

○：各団体組織が高齢化していることと、若者の方の参加を促して、担い手を育てていくことが課題である。センターの活動に参加しているのは高齢者が多く、継続が難しい。子育てサークルを20～30代の方で立ち上げた。子育て世帯に参加してもらうためには、どうしたらいいか課題である。自治センターだよりなど紙媒体で情報発信しているが、SNS等で発信していなければと思っている。情報発信を強化していきたいので、町の支援をお願いしたい。

議員：全くその通りで、我々議員にしても、その地域で問題意識をボンボン言ってくれば良いんですけど、代弁者ですから、みなさんの意見を聞いて町へ持っていくことが大事である。若者にもっと問題意識を持ってもらえればよいのだが、なかなか難しい。

議員：ホームページも重要だが、ホームページより簡単にできるSNSで発信できるとよい。

○：SNSの良さは、SNSへ上げたことに対してコメントを上げやすい。地域の方が疑問に思うことの意味が言いやすい。意見が自治センターに来て直接だとハードル高い。

議員：スマホも使いこなせない人が多い。

○：連絡もLINEを使って通信したい。SNSの使い方の教室を開いて、地域の人にも使えるようにしたい。自治体向けのLINEもある。

議員：SNSで情報流しているんですか？

○：本年度端末が入るのでやる予定。

議員：SNSはやってない。証拠が残ってしまう。

議員：SNSやった時に見られない人もいる。対象が高齢者だと伝わらないと思う。紙で通知しないと分からない人もいる。

○：並行してやる。高齢者の人は、すぐに対応できないと思うので、紙媒体でを継続していく。

議員：広報講習会で「伝えること」と「伝わること」は違うとの話があり、「伝える」ことが大事と言っていた。

○：発信する側が、ちゃんと伝わっているか確認することが大切だと思っている。

○：自治協議会について、令和3年6月から9回実施。令和4年度はワークショップも行って7回実施。区長会長が会長なので一年ごとに替わるので、なかなか進まない。会長の切り替わりが早すぎる。女性のほうが、高齢者福祉など前向き考えている。区長が自治協議会の必要性を感じていないので、なかなか進まないなど思っている。議員さんにも中に入り、話してもらおうと良いと考えているのでお願いしたい。危機管理上コロナの管理について、かかった時のことを教えてほしい。

議員：かかった人がいたので、診察を受けて陽性判断を受けた。症状が出なかったので、分からずに歩いていたと思う。

議員：症状が出ない。

議員：甘くは見ていない。重症化したり、亡くなる人もいるので。変異株が出てくるので、一度かかったらかからないというものでもない。

議員：感染力が強いと実感した。花粉症の症状に似ていた。

○：なぜ、こんなことを聞くかと言うと、高齢者とのお付き合いが多いので、心配だからなんです。

議員：感染力が強いから、換気をすることがとても大事。

○：どの団体も高齢化して、公民館も役員がいないので、継続が難しいということで昨夜も協議した。区の方から公民館にお金を出しているの、勝手に消滅できない。自治協議会は各種団体を集約するために作った。母の会とか会計は自治協議会でやっている。団体を無くすのは、いろいろしがらみがあり難しい。野木沢には3地区に公民館があり、各種団体の役員いない、後継者もないなど、事業が困難な時は自治協議会が最後に受け皿になるのかと考えている。保育所は4月で閉鎖。小学校は地区民と一体化しているので存続してほしいと思っているが、今の2年生は15人いたが、8人は石川小に行ってしまった。うちらの場合は学

区があったが、今は学区が無く、自由に大きな学校に行ける。確かに石川小は教育が熱心だけど、地域を壊してしまうことになるのでは。子どもは地区民で育てるべき。石川小に行ってしまうのは情けないと考える。

アンダー50、若い世代の親御さんの意見を聞こうっていうことで、これからの世代の意見をアンケート等で聞いた。野木沢は商店が無くなり、納豆も豆腐も売っているところが無いので、駅前にコモドカフェという施設を作った。フジワちゃんの隣。いかに施設を維持していくかは、予算の都合もあるので予算を出してもらえるとありがたい。地域の情報発信に力を入れている。ホームページを作成している。地元の郵便局に作品を展示し、地域の情報を発信している。

先ほど言った「足」の問題で、文化祭を小学校の体育館でやった。作品を自分で運ぶこととかができなくなっている。

議員：学区制は廃止していない。特例を認めているだけだが、地域の崩壊に繋がる。

議員：沢田も学校の統合には反対だった。地域の中で子どもは育てるべき。小さい学校には小さい学校の良さがある。保護者の中には、どうせ統合になるのだからと石川に行った人もいる。複式になると、統合ですよと言われていたので、町の方でも、子どもを減らさない努力をしてほしかった。子どもの将来を考えて進めてほしかった。

○：国でも、特色ある学校になるため先生も努力しなさいという方針だった。

議員：中二小の時に町へ提案したのは、学区を外すこと。近くの学校に行くことができ、学校も独自の努力をする。

○：地区で月・木・金に子ども教室を実施し、火・水は町で放課後児童クラブ実施している。地域でも努力していたのに、なぜ石川に行かなくちゃならないのかと思っている。石川小の児童クラブは、延長して見てくれる。

議員：保育所の問題だが、野木沢保育所の閉館時間は4時で早かった。

○：納税で差をつけてはいけない。教育は平等でなければいけない。

○：母畑は、少子高齢化で大変困っている。週3回の書道教室では、母畑の子が2人だけである。町で他からの移住を考えて、母畑に住んでもらえるようにしてほしい若い人は勤め先の近くに住んでしまう。限界集落というか消滅してしまう。一人住まい、老人世帯が多いので、移住策を練ってほしい。新聞に移住希望載っていたが、石川の移住状況は？

事務局：東京などの都会からの移住はほとんどなく、町出身の方が地元に戻り家を建てるケースはある。

○：地元で職があるのかも大切。

議員：空き家など提供できるかが問題になると思う。これからは、若い人にどれだけアピールするか、東京から来る人は、田舎の環境を求めている人がいる。地域おこし協力隊が採用になる予定で移住担当するので期待したい。

議員：子育て世帯が来てもらうには、学校があつたり、買い物ができたりが必要。町では、最大で500万円の助成の予算を計上している。西郷あたりは条件がいいから増えている。ただたんに、「カネくれっから」では来ない。

○：口調を通して空き家調査しているが、住める状態なのか確認にしているのか。

議員：していない。

○：少しお金をとって数日「お試し」で住んでもらったいいのではと考えている。石川町にも良いところがあるんだから、ここに来て、試しに住んでもらうということをやしてほしい。

○：空き家を改築して住んでもらうというやり方もある。移住のこと、石川町に興味がある人は、自然に興味がある人。山が欲しいという人がいた。石川に住んでいる人間は良さが分からない。こういうことをうまくアピールすればいいと思う。

議員：地元の山なんか相続したくないという人と、ほしいという人をマッチングすればいい。

○：役場で間に入ってほしい。町のホームページに空き家バンクのページがあるが、今年の4月からだが、一つも申し込みがないので、やる気が見えない町と思われる。視点を変えてやれば人は集まる。

議員：皆さんの意見を行政に伝えていきます。いろいろな意見ありがとうございます。